

平成30年度
全国学力・学習状況調査

分析結果



下野市教育委員会

平成31年2月

目 次

1 はじめに

2 下野市全体の傾向

(1) 学力調査の結果より	
① 学力調査について	1
② 全体比較	2
③ 領域別比較	2
④ 国語、算数・数学、理科の課題(概要)	4
(2) 学習状況調査(児童・生徒質問紙)の結果より	
① 学習状況調査について	6
② 良好な面	6
③ 課題とされる面	7

3 国語、算数・数学、理科の分析結果

(1) 国語	
① 小学校国語	
ア 国語A(知識)	8
イ 国語B(活用)	9
② 中学校国語	
ア 国語A(知識)	10
イ 国語B(活用)	11
(2) 算数・数学	
① 小学校算数	
ア 算数A(知識)	12
イ 算数B(活用)	13
② 中学校数学	
ア 数学A(知識)	14
イ 数学B(活用)	15
(3) 理科	
① 小学校理科	16
② 中学校理科	17

4 学習状況調査(児童・生徒質問紙)の分析結果

(1) 生活習慣	18
(2) 学習習慣	18
(3) 算数・数学への関心等	19
(4) 理科への関心等	20
(5) 自尊感情	21
(6) 規範意識	22
(7) 地域・社会への関心等	23

平成30年度全国学力・学習状況調査分析結果

平成31(2019)年2月
下野市教育委員会

1 はじめに

下野市教育委員会では、平成30年度の全国学力・学習状況調査の概要について、第一段階として、8月に速報をお知らせしました。

第二段階として、下野市全体としての結果を分析し、公表いたします。各学校や御家庭におかれましては、この分析結果を今後の学習指導の工夫改善や児童生徒の学習意欲、学習習慣の向上に役立てていただきたいと思います。

2 下野市全体の傾向

(1) 学力調査の結果より

① 学力調査について

学 力 調 査		下野市	栃木県 (公)	全国 (公)
調査対象	小学校 1 2 校	※ 509 人	※ 16,521 人	※ 1,030,025 人
人数内訳	中学校 4 校	※ 558 人	※ 16,426 人	※ 967,188 人

※国語A・B、算数・数学A・B、理科のうち最も参加人数が多かった数値で示してある。

平成30年4月17日(火)実施

【調査の対象】

- 小学校調査 小学校第6学年
- 中学校調査 中学校第3学年

【全国学力調査】

- 国語、算数・数学 A問題(主として「知識」に関する問題)
- 国語、算数・数学 B問題(主として「活用」に関する問題)
- 理科 * A・B問題を一体的に出題
- ◇ 国語の領域 (小・中) 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」
「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」
- ◇ 算数の領域 (小) 「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」
- ◇ 数学の領域 (中) 「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」
- ◇ 理科の領域 (小) 「物質」「エネルギー」「生命」「地球」
(中) 「物理的領域」「化学的領域」「生物的領域」「地学的領域」

【全国学習状況調査(児童・生徒質問紙)】

- 質問数 小学校62問、中学校59問
- 回答方法 選択等
- 質問内容 小学校、中学校ともにほぼ同じ内容
 - 長所、目標 ○ 規範意識、いじめ、人の役に立つ人間
 - 朝食 ○ 起床・就寝時刻 ○ 家庭学習(計画、宿題、予習・復習)
 - 学習時間、学習塾、読書時間 ○ 家庭でのコミュニケーション
 - 地域・社会への関心 ○ 新聞・ニュースの利用
 - 授業における発表、話し合い活動
 - 算数・数学の学習 ○ 理科の学習 ○ 問題の解答時間 等

②全体比較

平成30年度全国学力・学習状況調査(学力調査)結果

下野市と全国平均正答率との比較【H21～30全体比較】

※ H23、24 は抽出調査

◎大きく上回っている (5ポイント以上)

○上回っている (1ポイント以上5ポイント未満)

－同じ (±1ポイント未満)

▽下回っている (1ポイント以上5ポイント未満) ▼大きく下回っている (5ポイント以上)

小学校	H21	H22	H25	H26	H27	H28	H29	H30	中学校	H21	H22	H25	H26	H27	H28	H29	H30
国語A	○	○	○	▽	▽	－	○	○	国語A	○	○	○	○	○	○	－	○
国語B	○	－	○	○	－	○	○	○	国語B	◎	◎	◎	○	○	◎	○	○
算数A	－	○	○	－	－	－	○	○	数学A	◎	◎	○	○	○	○	○	－
算数B	－	○	○	○	○	○	○	○	数学B	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○
理科	／	／	／	／	○	／	／	○	理科	／	／	／	／	○	／	／	○

③領域別比較

全国学力調査結果 下野市と全国平均正答率との比較【H30領域別比較】

◎大きく上回っている (5ポイント以上)

○上回っている (1ポイント以上5ポイント未満)

－同じ (±1ポイント未満)

▽下回っている (1ポイント以上5ポイント未満)

▼大きく下回っている (5ポイント以上)

小学校国語	国語A	国語B	中学校国語	国語A	国語B
話すこと・聞くこと	○	－	話すこと・聞くこと	○	◎
書くこと	－	○	書くこと	○	－
読むこと	－	◎	読むこと	○	○
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○	／	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	－	○

小学校算数	算数A	算数B	中学校数学	数学A	数学B
数と計算	○	○	数と式	－	○
量と測定	－	○	図形	○	○
図形	◎	○	関数	○	○
数量関係	○	○	資料の活用	▽	○

小学校理科		中学校理科	
主として「知識」	◎	主として「知識」	○
主として「活用」	○	主として「活用」	○
物質	○	物理的領域	－
エネルギー	○	化学的領域	○
生命	◎	生物的領域	○
地球	◎	地学的領域	○

平成30年度の全国学力・学習状況調査の下野市の結果(国語、算数・数学、理科)は、小・中学校ともに全国平均正答率を上回る結果となりました。また、小学校は全教科全ての領域で、中学校は数学の1領域を除いた全ての領域で、全国平均正答率を上回る結果となりました。

【小学校の全国学力調査全体結果について】

国語のA問題では、「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で3～4ポイント全国の平均正答率を上回り、「書くこと」「読むこと」では、全国平均正答率と同程度でした。国語のB問題では、「読むこと」で6ポイント以上、「書くこと」で3ポイント以上全国の平均正答率を上回り、「話すこと・聞くこと」で1ポイント程度上回りました。

算数のA問題は、「図形」で6ポイント程度、「数と計算」「数量関係」で2～4ポイント全国の平均正答率を上回りました。「量と測定」は全国平均正答率と同程度でした。算数のB問題は、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の全ての領域で全国平均正答率を3～5ポイント上回りました。

理科では、主として「知識」に関する問題で8ポイント、主として「活用」に関する問題で4ポイント程度全国平均正答率を上回りました。領域別では「エネルギー」で4ポイント以上、「生命」「地球」で5ポイント以上全国平均正答率を上回りました。

【中学校の全国学力調査全体結果について】

国語のA問題は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で4ポイント程度、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で1ポイント程度全国平均正答率を上回りました。国語のB問題は、「話すこと・聞くこと」で5ポイント以上、「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で2ポイント程度全国平均正答率を上回りました。

数学のA問題では、「資料の活用」で全国平均正答率を3ポイント近く下回りましたが、他の3領域では全国平均正答率を1～3ポイント程度上回りました。B問題では、「数と式」で2ポイント近く、他の3領域では4ポイント程度全国平均正答率を上回りました。

理科では、主として「知識」に関する問題、主として「活用」に関する問題ともに全国平均正答率を2～3ポイント程度上回りました。「物理的領域」で全国平均正答率を1ポイント近く上回り、他の3領域では2～4ポイント近く上回りました。

【小・中学校の全国学習状況調査結果について】

今年度の学習状況調査(児童・生徒質問紙)の結果は、「1. 当てはまる」「2. どちらかといえば、当てはまる」等の肯定的な選択肢から集計しました。

小学校、中学校ともに全国平均と比較すると全体的によい傾向にありましたが、県平均と比較すると、小学校では22項目、中学校では9項目下回りました。

項目別に見ると小中学校ともに「地域の行事への参加」や「理科の授業への関心」でよい傾向が見られました。また、小学校では「就寝時刻」「地域の大人との関わり」について、中学校では「家庭学習」「課題解決への取組」「自分の考えを伝える工夫」「話し合い活動で自分の考えを深めたり広げたりすること」などについてよい傾向が見られました。

④国語、算数・数学、理科の課題(概要)

各教科ごとに、領域別に見て、全国平均正答率よりも低い結果となった設問について概要をまとめると次のようになる。

国 語

【小学校】

<読むこと>

国語Bの①「言葉の使い方を見直すために、話し合う」の設問二で、全国平均正答率を 1.1 ポイント下回った。計画的に話し合うために、司会の役割について捉えることに課題がある。

【中学校】

<読むこと><書くこと>

国語Bの①「説明的な文章を読む」の設問三で、全国平均正答率を 0.8 ポイント下回った。目的に応じて文章を読み、内容を理解して書くことに課題がある。

国語Bの③「文学的な文章を読む」の設問二で、全国平均正答率を 1.4 ポイント下回った。登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てることに課題がある。

<伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項>

国語Aで対象となる22設問のうち6問が全国平均正答率を下回った。昨年度より改善は見られたものの、依然として文脈に即して漢字を読んだり書いたりすることや語句の意味を理解して文脈の中で適切に使うことに課題がある。

算数・数学

【小学校】

<数と計算><数量関係>

算数Aの①「計算の能力(計算の意味の理解と演算決定)」の設問(3)で、全国平均正答率を 0.3 ポイント下回った。1に当たる大きさを求める問題場面で、除数が1より小さい小数である場合でも除法を用いることの理解に課題がある。

<量と測定>

算数Aの④「単位量当たりの大きさ」の設問(2)で、全国平均正答率を 0.8 ポイント下回った。単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味の理解に課題がある。

算数Aの⑤「角の大きさ」の設問(2)で、全国平均正答率を 2.1 ポイント下回った。180°や360°を基に分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求めることに課題がある。

【中学校】

<数と式>

数学Aの①「正の数と負の数とその計算」の設問(1)と設問(3)で全国平均正答率を 0.5 ポイント程度下回った。数直線上に示された負の整数を読み取ることや正の数と負の数の四則計算に課題がある。

数学Aの②「文字式の計算とその利用」の設問(2)で全国平均正答率を 1.4 ポイント下回った。単項式どうしの除法の計算に課題がある。

数学Aの③「方程式の解き方とその利用」の設問(1)で 0.7 ポイント、(3)の設問で 3.1 ポイント全国平均正答率を下回った。方程式を解く場面における等式の性質の使い方の理解や簡単な連立二元一次方程式を解くことに課題がある。

数学Bの⑤「数学的な結果の事象に即した解釈」の設問(2)で全国平均正答率を 1.3

ポイント下回った。数学的な結果を事象に即して解釈することを通して、成り立つ事柄を判断し、その理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

<図形>

数学Aの[4]「対象な図形・作図の利用・回転移動」の設問(1)で全国平均正答率を1.7ポイント下回った。ひし形は、線対称な図形であり、点对称な図形でもあることの理解に課題がある。

<関数>

数学Aの[1 1]「一次関数の増加量・グラフ」の設問(2)で全国平均正答率を1.1ポイント下回った。xとyの関数について、xの値の変化に伴うyの増加量を求めることに課題がある。

数学Aの[1 2]「一次関数の利用」で7.2ポイント全国平均正答率を下回った。一次関数の意味の理解に大きな課題がある。

<資料の活用>

数学Aの[1 4]「最頻値の意味・中央値の求め方」の(2)で2.3ポイント全国平均正答率を下回った。与えられた資料から中央値を求めることに課題がある。

数学Aの[1 5]「確率の意味と求め方」の設問(1)で1.5ポイント、(2)で7.3ポイント全国平均正答率を下回った。確率の意味の理解や票などを利用して確率を求めることに課題がある。

理 科

【小学校】

<物質>

[4]「粒子に関する問題」の設問(3)「学んだことの自然の事物・現象への適用(ものの溶け方)」で、全国平均正答率を3.4ポイント下回った。物が水に溶けても、水と物とを合わせた重さは変わらないことの理解に課題がある。

【中学校】

<生物的領域>

[2]「アサリの砂出しを科学的に探究する」の設問(1)で、全国平均正答率を1.3ポイント下回った。無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用することに課題がある。

[5]「刺激と反応を化学的に探究する」の設問(1)で、全国平均正答率を1.5ポイント下回った。神経系の働きについての知識が身に付いていない。

<物理的領域>

[6]「豆電球とLEDを科学的に探究する」の設問(2)で、全国平均正答率を0.8ポイント下回った。オームの法則を使って、抵抗の値を求めることに課題がある。

<科学的領域>

[8]「発熱パックを科学的に探究する」の設問(1)で、全国平均正答率を4.3ポイント下回った。アルミニウムの原子の記号の書き表し方についての知識が身に付いていない。

(2) 学習状況調査（児童・生徒質問紙）の結果より

① 学習状況調査について

学習状況調査		下野市	栃木県（公）	全国（公）
調査対象	小学校 12校	509人	16,521人	1,030,025人
人数内訳	中学校 4校	558人	16,426人	967,188人

質問数	小学校62項目、中学校59項目
回答方法 (主に)	4つから選択 1 している（当てはまる） 2 どちらかといえば、している（当てはまる） 3 あまりしていない（どちらかといえば、当てはまらない） 4 全くしていない（当てはまらない）
質問内容	○学習に関する関心・意欲・態度 算数・数学への関心等、理科への関心等、地域・社会への関心等 ○規範意識・自尊感情 ○学習の基盤となる活動・習慣 生活習慣、学習習慣

今年度の学習状況調査（児童・生徒質問紙）の結果は、小学校では62項目中6項目、中学校では59項目中4項目が全国平均を下回ったが、それ以外の項目は同等または上回っており全体的によい傾向が見られた。

また、小・中学校とも共通して「生活習慣」「理科への関心等」「地域・社会への関心等」でよい傾向が見られ、特に中学校では「自尊感情」でよい傾向が見られた。

② 良好な面

学習状況調査の下野市の結果を全国、県と比べて小学校・中学校ともに上回った質問内容は、次のとおりであった。27項目で上回る結果となった。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(7)	朝食を毎日食べていますか	96.5	94.5	94.1	91.9
(8)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	82.2	77.0	77.6	74.2
(10)	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	72.3	67.6	59.5	52.1
(14)*	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む) *1時間以上	71.9	66.2	80.6	70.6
(18)	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか	83.1	80.5	80.7	76.0
(20)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	69.2	62.7	54.8	45.6
(22)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	56.0	49.9	47.1	38.7
(24)	地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか	46.8	41.6	28.7	25.5

(25)	新聞を読んでいますか *「ほとんど、または、全く読まない」以外	24.7	19.9	16.8	13.9
(26)	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）	89.0	86.2	90.9	86.6
(27)	算数・数学の勉強は好きですか	67.4	64.0	57.4	53.9
(29)	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	86.5	83.4	74.0	71.0
(32)	算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	68.6	64.4	43.4	38.7
(34)	算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	80.2	78.5	76.9	69.2
(35)	算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ（根拠）を理解するようにしていますか	84.7	80.4	77.6	70.4
(38)	理科の勉強は好きですか	88.6	83.5	69.0	62.9
(39)	理科の勉強は大切だと思いますか	89.4	85.4	76.4	70.6
(40)	理科の授業の内容はよく分かりますか	91.7	89.4	76.9	70.0
(41)	自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか	91.5	87.0	83.1	77.6
(42)	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	71.9	64.7	55.9	45.4
(43)	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	78.4	72.9	64.5	55.7
(44)	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	32.8	26.1	25.5	22.2
(46)	理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか	93.0	89.1	93.7	87.1
(48)	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	83.5	75.2	67.2	58.5
(49)	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか	85.7	81.8	84.4	72.3
(50)	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	75.8	68.1	72.2	59.0
小(55) 中(52)	5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	81.0	76.7	82.1	73.8

③課題とされる面

学習状況調査の下野市の結果を全国及び県と比べて、小学校と中学校ともに下回った質問内容は、次のとおりであった。

質問番号 (小, 中)	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(23)	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか	60.4	62.6	69.0	73.6

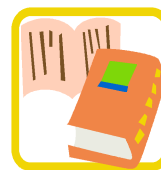
数字は、選択肢1「当てはまる」2「どちらかといえば、当てはまる」の合計

3 国語、算数・数学、理科の分析結果

※ 本分析で使用している全国平均は、公立学校の平均である。

(1) 国語

① 小学校国語



ア 国語A (知識)

○市として正答率が低かった設問 **5** (正答率 本市 45.2 % 全国 35.5 %)

【春休みの出来事の一部】文のはじめにある数字は、その文の番号を示しています。

大山さんは、春休みの出来事について文章を書いたあと、読み返して、……部と……部とのつながりが合っていない文があることに気づきました。次の「春休みの出来事の一部」をよく読んで、あとの(問い)に答えましょう。

5

(正答例)

- ・④を選択
- ・「反省点は、用具の手入れをあまりしなかったことです。」

【問い】

——部と——部とのつながりが合っていない文の番号を、①から④までのの中から一つ選んで書きましょう。また、——部はそのままにして、文の意味が変わらないように、選んだ文を正しく書き直しましょう。

※解答は、解答用紙に書きましょう。

選んだ文の番号……

書き直した一文

①ぼくは、校庭で野球の練習を毎日がんばりました。その努力は見事に実りました。②ぼくたちのチームは、地区大会で優勝したので、③今年の春休みは、とてもじゆう実したものでありました。でも、反省していることもあります。④反省点は、用具の手入れをあまりしませんでした。これからは、練習だけではなく、用具の手入れもしっかりがんばりたいと思います。

○確認する力

- ・文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことができる。
- 〔第3学年及び第4学年〕伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
- (1) イ 言葉の特徴やきまりに関する事項
- (キ) 修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。

○分析

- ・主語と述語がつながっていない文を④と選択できなかった割合は、市全体の 39.7 % だった。また、④と選択できた 60.3 % のうち、主語と述語との関係を踏まえて適切に書き直すことができなかった割合は、15.1 % であった。

○学習指導に当たって

- ・主語と述語の関係を理解している児童の割合が低く、文の構成についての理解が定着できていないと考えられる。
- ・主語と述語が適切な係り受けの関係となっていることが、相手に正確に伝える上で重要であることに気付くようにする。
- ・主語と述語との関係については、文章を読むときにも強く意識できるよう指導したり、書くことの学習とも関連を図ったりして、児童が自分で書いた文や文章を、主語と述語との関係に注意しながら、丁寧に読み返していく習慣を付けたりする。

<正答の条件>

①むし歯を防ぐ効果について、【紹介する文章】と【保健室の先生の話から分かったこと】から以下の内容を取り上げて書いている。

a よくかむこと

b だ液がたくさん出て、口の中をきれいに保つこと

②【おすすめする文章】にふさわしい言葉を用いて書いている。

③書き出しの言葉に続けて、50字以上、80字以内で書いている。

○確認する力

・目的に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことができる。

〔第5学年及び第6学年〕B 書くこと

ウ 事実と感想、意見などと区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に語り詳しく書いたりすること。

○分析

・誤答として、条件の①bを満たしていない割合が30.6%、むし歯を防ぐことについて書いているが条件①a、bを満たしていない割合が20.4%であった。

・「よくかむこと」を取り上げ、「【おすすめする文章】にふさわしい言葉」を用いて書くことはできているが、【保健室の先生の話から分かったこと】から適切な内容を取り上げて書くことができていない。

○学習指導に当たって

・事例を挙げて書く際には、自分の考えを具現化することや相手の理解を促したりすることができるか判断すること、必要な資料を集め、得た情報を適切に関連付けて書くことなどが大切である。

・分かりやすい文章を書くためには、相手に伝わるかという観点で、再度検討したり、友達と相互に吟味し合ったりするなどの活動を取り入れることが考えられる。

②中学校国語

ア 国語A (知識)

○全国平均を大きく下回った設問

8 ー2 (正答率 本市 67.7% 全国 72.9%)

8 一 —— 線部のカタカナを漢字に直し、楷書でていねいに書きなさい。

2 舞台のマクが上がる。

○確認する力

・文脈に即して漢字を正しく書くことができる。

〔第2学年〕伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1) ウ

(イ) 学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと

○分析

・誤答の割合は14.5%で全国と比べ約2ポイント高く、無解答の割合は17.7%で全国と比べ3ポイント以上高かった。

○学習指導に当たって

・漢字を書くことの指導では、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を身に付けさせ、文脈に即して漢字を書くように注意しながら学習させる。

- ・他教科等の学習でも同音の漢字や形が似ている漢字などの間違えやすい漢字について意識させる。
- ・必要に応じて辞書を引くことを習慣付けたり、書写の学習との関連を図って楷書で正しく整った文字を書かせたりするようにする。

イ 国語B (活用)

○全国平均を下回った設問

③ 二 (正答率 本市 66.8 % 全国 68.8 %)

③ 古典を現代語訳した文章を読んで問いに答える。

二 本文中の——線部「考えてみると、夢を取るということは、なんと恐ろしいことではないか。」とありますが、これは誰の言葉ですか。(4つの選択肢から適切な解答を選ぶ。)

- 1 ひきのまきひと【18.6%】
- 2 夢うらないの女【7.9%】
- 3 国司の長男殿【6.6%】
- 4 この話の語り手【66.8%】(正答)

○確認する力

- ・登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てることができる。

〔第2学年〕C 読むこと

- イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。《文章の解釈》

○分析

- ・文章を読んで、傍線部を含む場面が「この話の語り手」の言葉であることや、「ひきのまきひと」の言葉は、かぎ(「」)でくくられていることを捉えることができていると考えられる。

○学習指導に当たって

- ・文学的な文章を読む際には、登場人物の言葉や行動が、話の展開や作品全体に表れたものの見方などにどのように関わっているかを考えながら読むようにする。
- ・複数の場面や描写を相互に結び付けながらそれぞれの言動の意味を考えることができるようにすることが重要である。
- ・登場人物の言動や地の文の叙述などを整理し、場面や登場人物の設定の仕方についてまとめるなどの学習活動が考えられる。

(2) 算数・数学
① 小学校算数



ア 算数A (知識)

○全国平均を下回った設問

5 (2) (正答率 本市 56.6 %、全国 58.5 %)

5

図1のように、円の中心である点アと円周上の点イを直線で結び辺アイとし、点アと円周上の点ウを直線で結び辺アウとして、これらの辺がつくる角を、角㊸としました。

図2

図2のように、辺アウを矢印の向きに動かして角㊸の角度を大きくしていきます。

図3

図3のように、辺アイと辺アウが一直線になったときの角を、角㊹とします。また、図4のときの角を、角㊺とします。

(2) 左ページの図4のときの角㊺の角度を、分度器を使ってはかります。角㊺の角度は何度ですか。答えを書きましょう。

○確認する力

〔第4学年〕 B 量と測定

(2) 角の大きさ

角の大きさについて単位と測定の意味を理解し、角の大きさの測定ができるようになる。

- ア 角の大きさを回転の大きさとしてとらえること。
- イ 角の大きさの単位 (度 (°)) について知ること。

○分析

- ・誤答については、分度器の数値である110度や70度を読んで、そのまま解答しているものが31.7%と大部分を占めた。
- ・測定する角の大きさが180度以上であることを捉えることに課題がある。

○学習指導に当たって

・分度器を用いて角の大きさを測定したり、示された角の大きさを作り確かめたりする経験を十分に積ませる必要がある。その際、角の大きさについての感覚を培うために、直角の大きさを基準として角の大きさの見当を付ける学習活動を充実させることが大切である。例えば、210度の大きさの角について、「180度より30度大きい角」や「360度より150度小さい角」と捉えられるような学習活動が考えられる。

イ 算数B (活用)

○正答率の低かった設問

3 (1) (正答率 本市 21.0 %、全国 20.9%)

3

しおりさんたちの学校は、「逃んであいさつをする」と「本をよく読む」の2つのめあてに取り組んでいます。

しおりさんたちは、7月と12月に、2つのめあてについて全校児童625人に対してアンケート調査をし、その結果を下のグラフに表しました。

しおりさんは、グラフからわかることを2つのメモに書きました。

えりかさんとまさるさんは、しおりさんが書いたメモについて話し合っています。

メモ	「逃んであいさつをする」	「本をよく読む」
メモ1	約570人	約550人
メモ2	約50人	約200人

えりか

メモ1を見ると「逃んであいさつをする」のほうが人数が多いです。でも、メモ2を見ると「本をよく読む」のほうが人数が多いですね。

まさる

メモ1では、「逃んであいさつをする」のほうが人数が多く、メモ2では、「本をよく読む」のほうが人数が多いのは、なぜですか。

しおり

メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてちがうことに着目して書いているからです。

しおりさんが言うように、メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてちがうことに着目して書かれています。

(1) メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれていますか。それぞれ着目していることを、言葉や数を使って書きましょう。

○確認する力

〔第3学年〕 D 数量関係

(3) 表と棒グラフ

資料を分類整理し、表やグラフを用いて分かりやすく表したり読み取ったりすることができるようにする。

ア 棒グラフの読み方や書き方について知ること。

○分析

・本市の正答率は 21.0 %で、本調査の中で正答率が1番低い設問であるとともに、無解答が 15.9 %と本調査の中で1番高い設問であった。

・複数の観点で示された情報とグラフを関連付けて解釈し、表現することに課題があると考えられる。

○学習指導に当たって

・日常生活の中で主体的に問題を見いだして情報を収集し、表やグラフなどに整理して考察した結果から新たな問題を見だし、さらに情報を収集し整理し直して考察する力を育てることが大切である。その際、様々な視点でグラフを比較し、類似点や相違点を見だし、表現できるようにさせたい。また、児童が互いに伝え合うことで、様々な考えがあることに気付くようにする学習を充実させたい。

②中学校数学

ア 数学A (知識)

○全国平均を大きく下回った設問

15 (2) (正答率 本市 64.0 %、全国 71.3 %)

(2) 下の表は、大小2つのさいころを同時に投げるときの出る目の数の和について、すべての場合を表したものです。例えば、表の右下の12は、大きいさいころの目が6で小さいさいころの目が6のときの和を表しています。

小 大	1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	5	6	7
2	3	4	5	6	7	8
3	4	5	6	7	8	9
4	5	6	7	8	9	10
5	6	7	8	9	10	11
6	7	8	9	10	11	12

大小2つのさいころを同時に投げるとき、出る目の数の和が8になる確率を求めなさい。ただし、どちらのさいころも1から6までの目の出方は、同様に確からしいものとします。

○確認する力

〔第2学年〕D 資料の活用

(1) 不確定な事象についての観察や実験などの活動を通して、確率について理解し、それを用いて考察し表現することができるようにする。

ア 確率の必要性と意味を理解し、簡単な場合について確率を求めること。

イ 確率を用いて不確定な事象をとらえ説明すること。

○分析

・本市の正答率は、64.0 %で、全国の正答率 (71.3 %) を5ポイント以上下回っている。確率の意味の理解や表などを利用して確率を求めることに課題があると考えられる。

○学習指導に当たって

・確率を求めるために、樹形図や二次元表などを利用して、起こり得る全ての場合の数とその事柄が起こり得る場合の数を正しく数え上げられるように指導することが大切である。また、どのような条件の時の確率が最も大きくなるのかなど、目的をもって確率を用いて不確定な事象を考察し、表現できるようにすることにつなげていきたい。

イ 数学 B (活用)

○全国平均を下回った設問

5 (2) (正答率 本市 9.1 %、全国 10.4 %)

5 里奈さんは、バスツアーを利用して旅行することにしました。そこで、S社とT社のパンフレットから、次のような表にまとめました。

里奈さんが作った表

	S社	T社
プラン名	史跡巡りプラン	史跡巡りプラン
通常料金	1人3500円	1人3200円
団体料金	1人2940円	通常料金の10%引き
団体料金の利用可能人数	8人以上	10人以上

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 里奈さんが作った表から、S社の場合、団体料金は通常料金の560円引きであることがわかります。この560円は通常料金の何%にあたるかを求める式を書きなさい。ただし、実際に何%にあたるかを求める必要はありません。

(2) 里奈さんは、T社の史跡巡りプランの場合、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求めました。

里奈さんの計算1

団体料金は、通常料金3200円の10%引きだから、
 $3200 - 3200 \times 0.1 = 3200 - 320 = 2880$
 団体料金2880円の10人分は、
 $2880 \times 10 = 28800$
 通常料金3200円の何人分にあたるかを求めるから、
 $28800 \div 3200 = 9$

里奈さんの計算1から、史跡巡りプランの団体料金の10人分は通常料金の9人分にあたることがわかります。

里奈さんは、T社の他のプランも調べました。その結果、プランによって通常料金は異なりますが、10人以上で利用すると、どのプランでも団体料金は通常料金の10%引きになることがわかりました。そこで、通常料金が変わった場合、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかについて調べるために、T社の通常料金を a 円として、次のように計算しました。

里奈さんの計算2

団体料金は、通常料金 a 円の10%引きだから、
 $a - a \times 0.1 = a - 0.1a = 0.9a$
 団体料金 $0.9a$ 円の10人分は、
 $0.9a \times 10 = 9a$
 通常料金 a 円の何人分にあたるかを求めるから、
 $9a \div a = 9$

上の里奈さんの計算2からわかることがあります。下のア、イの中から正しいものを1つ選びなさい。また、それが正しいことの理由を説明しなさい。

ア 通常料金が変われば、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかは変わる。

イ 通常料金が変わっても、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかは変わらない。

○確認する力

〔第2学年〕 A 数と式

(1) 具体的な事象の中に史医療の関係を見だし、それを文字を用いて式に表現したり式の意味を読み取ったりする野力を養うとともに、文字を用いた式の四則計算ができるようにする。

イ 文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明できることを理解すること。

○分析

・誤答については、「ア 通常料金が変われば団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかも変わる。」を選択したものが35.3%を占めている。このように考えた生徒は、通常料金の変化に伴って、団体料金の割引の率も変わると捉えたと考えられる。

○学習指導に当たって

・日常的な事象の考察において、表、式、グラフなどから得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができるように指導することが大切である。また、ある事柄が成り立つことを説明する際には、説明すべき事柄とその根拠の両方を示し、数学的な表現を用いて簡潔にわかりやすく説明することができるように指導することが大切である。

・本設問を使って授業を行う際には、A「団体料金の10人分が通常料金の何人分かを表す式に、 a が含まれていない」ことを根拠にして、B「通常料金が変わっても団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかは変わらない」ことを説明する学習が考えられる。その際、説明すべき事柄のBとその根拠のAを明確に区別し、「AであるからBである」のように説明できるようにすることが大切である。

(3) 理科
① 小学校理科



○全国平均を下回った設問 **4** (3) (正答率 本市 39.3 % 全国 42.7 %)

4 ゆかりさんたちは、海で見つけた魚を飼育して観察することにしました。

ゆかりさんたちは、魚を水そうで飼育しようとしたところ、水そうに入れる海水が足りない
ので、海水と同じ濃さの食塩水をつくることにしました。

ゆかりさんは、400 mLの水を用意して、12 gの食塩をとかすことにしました。

そこで、できた食塩水の量をメスシリンダーではかってみると、408 mLになっていま
した。

(3) このときにできた食塩水の重さはどうなっていますか。

下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書き
ましょう。

- 1 400 gになる。 【17.5 %】
- 2 408 gになる。 【31.0 %】
- 3 412 gになる。 【39.3 %】 (正答)
- 4 420 gになる。 【11.8 %】

無解答 【0.4 %】



○確認する力

・物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水
に適用できるかどうかをみる。

[第5学年] A 物質・エネルギー

(1) 物の溶け方

ウ 物が水に溶けても、水と物とを合わせた重さは変わらないこと。

○分析

・全ての設問の中で、この設問だけが全国の平均正答率を下回った。
・正答は3の412 gであるが、2の408 gを選択した誤答は31.0%であった。メスシ
リンダーで408 mLの表示があるために、情報の正しい選択ができていない。食塩を入れ
て増えた体積分だけの水の重さ(8 g)が増えると捉えてしまっており、物を水に溶かす
前と後で全体の重さは変わらないことへの理解が十分でない。

○学習指導に当たって

・水の入ったメスシリンダーを電子天秤に乗せて食塩を加えていくなど、児童に実際に重
さを測らせる活動を設定することが大切である。加える食塩の質量と水の質量を足した重
さが、電子天秤に示されている数値と同じであるという実感をもたせるとともに、図やイ
ラストに表現させることで定着を図りたい。

②中学校理科

○全国平均を下回った設問

8 (1) (正答率 本市 79.2 % 全国 83.5 %)

8 夏希さんは、発熱パック（火を使わずに発熱する商品）について、科学的に探究して実験ノートにまとめました。

（主成分にアルミニウムが入っていることに気づき、アルミニウムがなぜ入っているのかを探究することにし、いくつかの実験を行い探究していく問題）

（1）アルミニウムの原子の記号を、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

ア AL	イ Al	ウ aL	エ al	
【8.6 %】	【79.2 %】	【2.9 %】	【8.4 %】	無解答【0.7 %】
	(正答)			

○確認する力

・アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身につけているかどうかをみる。

〔第2学年〕第1分野

(4) 化学変化と原子・分子

ア 物質の成り立ち

(イ) 原子・分子

物質は原子や分子からできていることを理解し、原子は記号で表されることを知ること

○分析

・アルミニウムの原子の記号（元素記号）を4つの選択肢から選ぶ設問である。元素記号が、大文字と小文字の組み合わせで構成されているという基礎事項が定着していない。

○学習指導に当たって

・元素記号の成り立ちの知識は、元素記号を読んだり、書いたりすることが多くなる化学式や化学反応式の学習の際にも必須事項である。元素記号の学習時に基本を確認し、定着させるために、意図的に読ませて元素の名称を答えさせたり、書かせたりする内容を取り入れた授業展開を工夫したい。毎授業の始めに小テストを実施したり、ICTを用いたフラッシュ型教材（フラッシュカードのように、課題を瞬時に次々と提示するデジタル教材）を活用したりして定着を図ることなども考えられる。

4 学習状況調査（児童・生徒質問紙）の分析結果

(1) 生活習慣

本市の小中学生は、全国と比較すると基本的な生活習慣が定着していることが確認できた。また、朝食の摂取率は昨年度より高くなっている。しかし、昨年度同様、起床時刻に比べると就寝時刻が定まっていないことが分かった。

今後も規則正しい生活習慣の大切さを児童生徒に指導するとともに、家庭にも引き続き啓発を行い、現在の好ましい生活習慣を継続させていくことが望まれる。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(7)	朝食を毎日食べていますか	96.5	94.5	94.1	91.9
(8)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	82.2	77.0	77.6	74.2
(9)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	92.3	89.8	92.3	90.3

※数値は、「している」「どちらかといえば、している」の合計

(2) 学習習慣

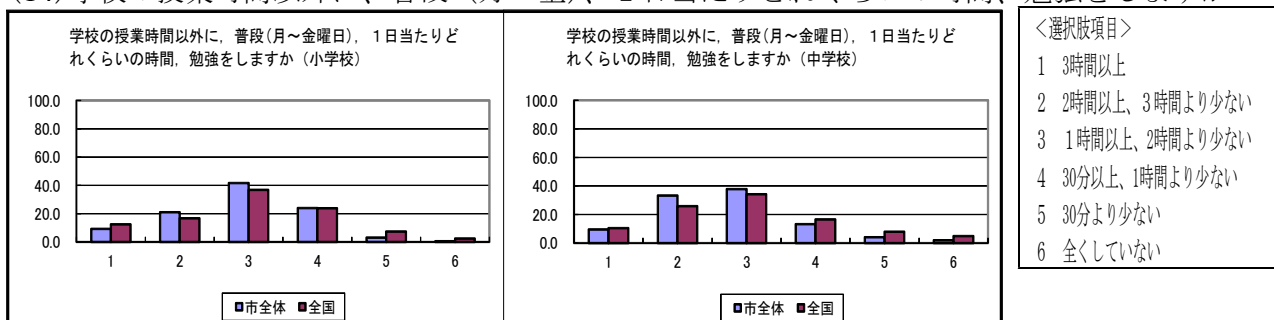
「家で、自分で計画を立てて勉強している」「学校の宿題をしている」「授業の予習・復習をしている」の項目で、小中学生ともに全国を上回っている。学校の授業時間以外に、平日1日当たり1時間以上勉強している小学生は、昨年度とほぼ同じ割合で、中学生は昨年度より1ポイント増加している。また、1日当たり30分以上読書している児童生徒は全国平均を上回り、昨年度よりも上回っていた。

小中学生ともに家庭での学習時間が確保され、学習習慣が身に付いている。

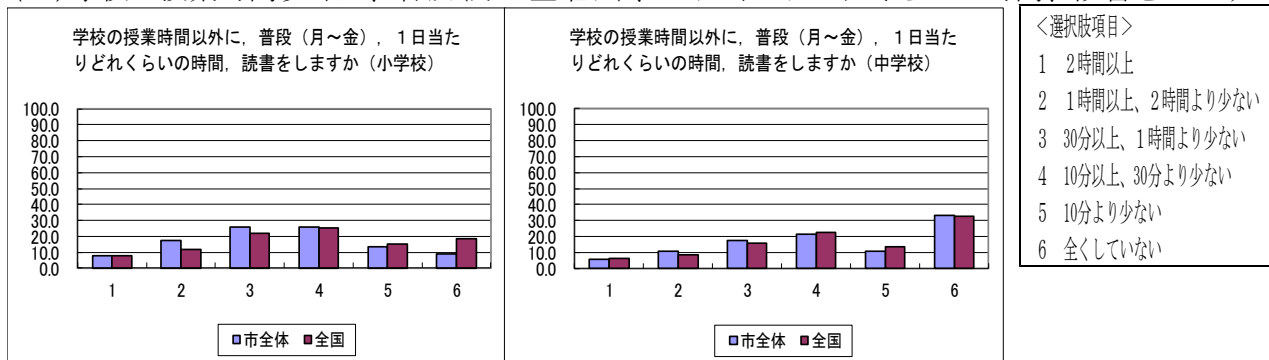
質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(10)	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	72.3	67.6	59.5	52.1
(11)	家で学校の宿題をしていますか	97.3	97.1	94.3	91.6
(12)	家で学校の授業の予習・復習をしていますか	66.2	62.6	69.0	55.2
(14)*	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む) *1時間以上	71.9	66.2	80.6	70.6
(15)*	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか *「2時間以上」「1時間以上、2時間より少ない」「30分以上、1時間より少ない」の合計	51.5	41.1	33.9	30.9

※数値は、「している」「どちらかといえば、している」の合計

(14) 学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



(15) 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか



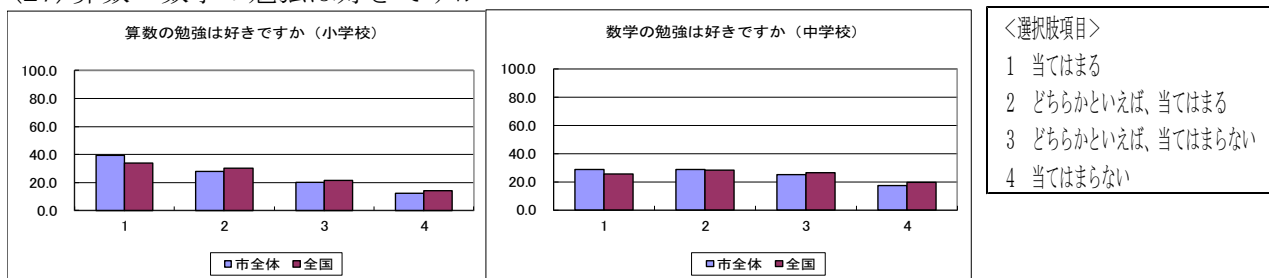
(3) 算数・数学への関心等

算数や数学への関心については、ほとんどの質問で全国平均を上回り、小中学生ともにより傾向であるといえる。

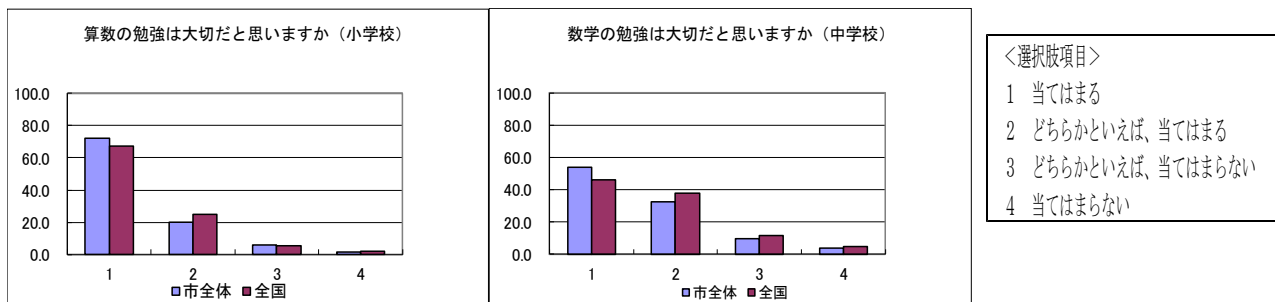
「算数・数学の授業の内容はよく分かりますか」で小中学生ともに全国平均を3ポイント上回り、昨年度より4～6ポイント上回った。今後も児童生徒にとって分かりやすい授業を心掛け、さらに問題の解き方や考え方が分かるようノートに自分の考えを書かせる指導を行うことにより、更なる学力向上につなげていきたい。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(27)	算数・数学の勉強は好きですか	67.4	64.0	57.4	53.9
(28)	算数・数学の勉強は大切だと思いますか	92.1	92.1	86.5	83.6
(29)	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	86.5	83.4	74.0	71.0
(30)	算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか (数学ができるようになりたいと思いますか)	75.6	74.3	95.7	92.5
(31)	算数・数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	78.8	78.4	78.2	70.3
(32)	算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	68.6	64.4	43.4	38.7
(33)	算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	89.2	90.3	79.9	72.9
(34)	算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	80.2	78.5	76.9	69.2
(35)	算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ(根拠)を理解するようにしていますか	84.7	80.4	77.6	70.4
(36)	算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	86.0	85.8	79.4	80.6

(27) 算数・数学の勉強は好きですか



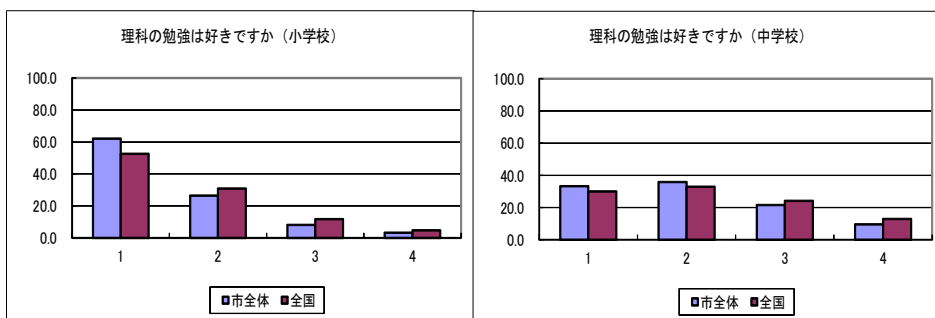
(28) 算数・数学の勉強は大切だと思いますか



(4) 理科への関心等

理科への関心については、ほとんどの質問で全国平均を上回り、小中学生ともにより傾向であるといえる。
 理科の授業では、問題解決の学習過程が行われ、課題に対する自分の予想を立て、観察や実験の結果から考察することができている。小学生では、自分の考えを周りの人に説明したり発表したりすることに課題が見られるため、授業改善の視点としたい。

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(38)	理科の勉強は好きですか	88.6	83.5	69.0	62.9
(39)	理科の勉強は大切だと思いますか	89.4	85.4	76.4	70.6
(40)	理科の授業の内容はよく分かりますか	91.7	89.4	76.9	70.0
(41)	自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか	91.5	87.0	83.1	77.6
(42)	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	71.9	64.7	55.9	45.4
(43)	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	78.4	72.9	64.5	55.7
(44)	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	32.8	26.1	25.5	22.2
(45)	理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか	52.6	54.5	47.7	41.4
(46)	理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか	93.0	89.1	93.7	87.1
(47)	観察や実験を行うことは好きですか	91.8	89.8	83.2	82.1
(48)	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	83.5	75.2	67.2	58.5
(49)	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えて (考察して) いますか。	85.7	81.8	84.4	72.3
(50)	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	75.8	68.1	72.2	59.0
小 (52)	5年生のとき、理科の授業がおもしろいと思いましたか	91.9	87.5		
小 (53)	5年生のとき、理科の授業を受けた後に、習ったことに関わることで、もっと知りたいことができましたか	82.9	75.1		



- ＜選択肢項目＞
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

(5) 自尊感情

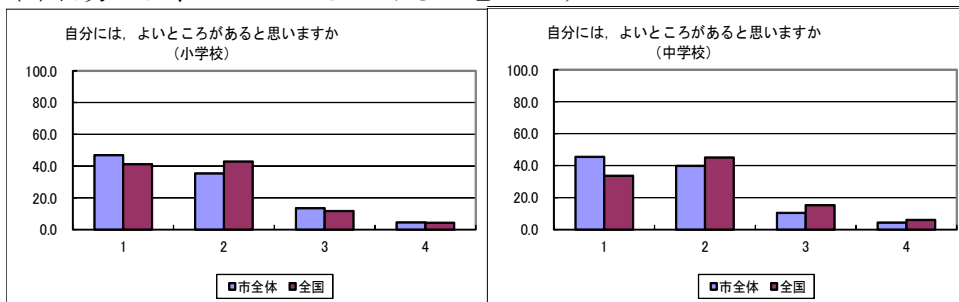
「自分には、よいところがあると思いますか」で、小学生は全国平均を下回っているが、市の平均は昨年度より約6ポイント上回った。中学生は全国平均を6.5ポイント上回り、市の平均は昨年度より14ポイント上回った。また、「将来の夢や目標をもっていますか」で、中学生は全国平均を7.5ポイント上回り、市の平均は昨年度より約3ポイント上回った。

本市の小中学生の自己肯定感が高まり、中学生については良い傾向が見られた。

質問番号	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(1)	自分には、よいところがあると思いますか	82.2	84.0	85.3	78.8
(2)	先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか。	86.4	85.3	84.9	82.2
(3)	将来の夢や目標をもっていますか	85.6	86.1	79.9	72.4

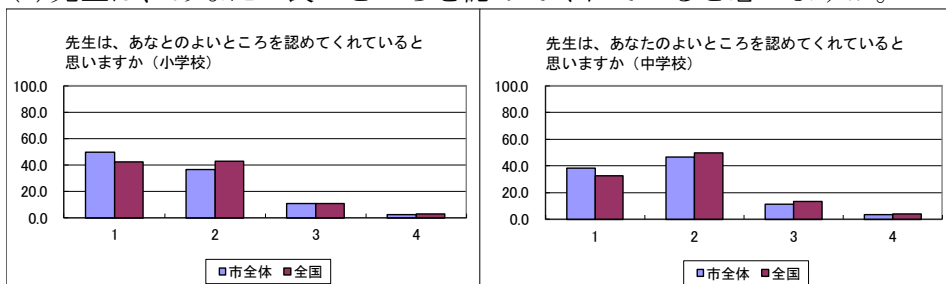
※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(1) 自分には、よいところがあると思いますか



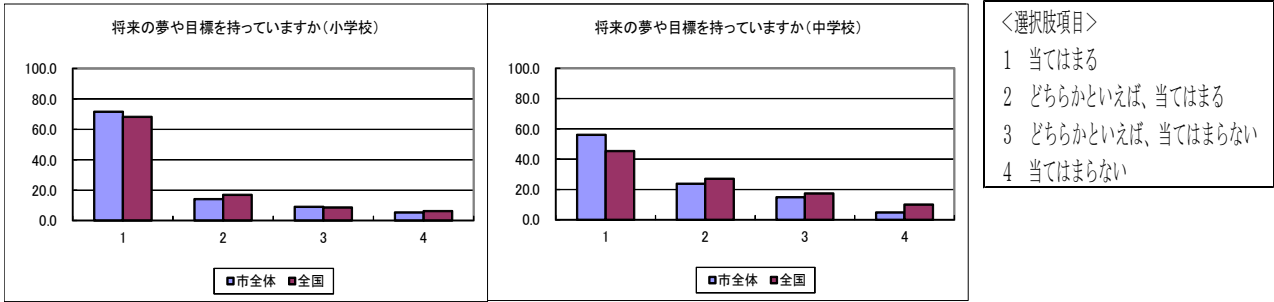
- ＜選択肢項目＞
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

(2) 先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか。



- ＜選択肢項目＞
- 1 当てはまる
 - 2 どちらかといえば、当てはまる
 - 3 どちらかといえば、当てはまらない
 - 4 当てはまらない

(3) 将来の夢や目標を持っていますか



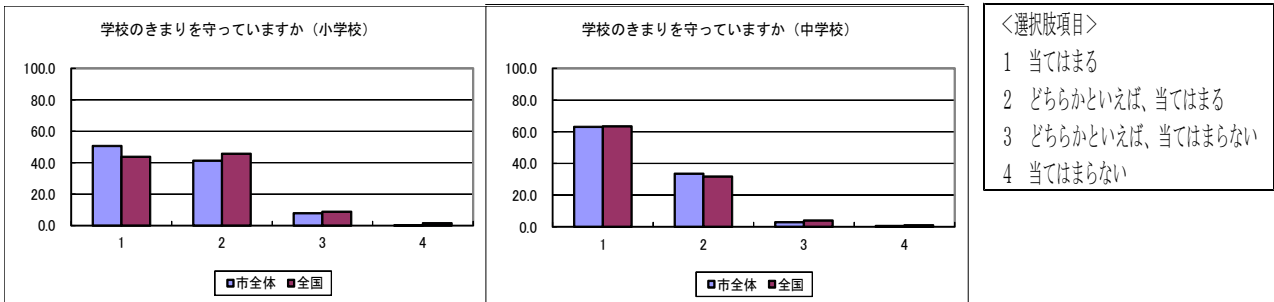
(6) 規範意識

「学校のきまりを守っていますか」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」のどちらも、全国平均を上回った。
 本市の小中学生は、規範意識が高い状況がうかがえる。学校や学級が規律ある集団生活を送ることができる環境であれば、児童生徒は安心して学習に取り組むことができ、学力向上につながっていく。今後も児童生徒一人一人が成長していけるよう、学びに向かう集団づくりに努めたい。

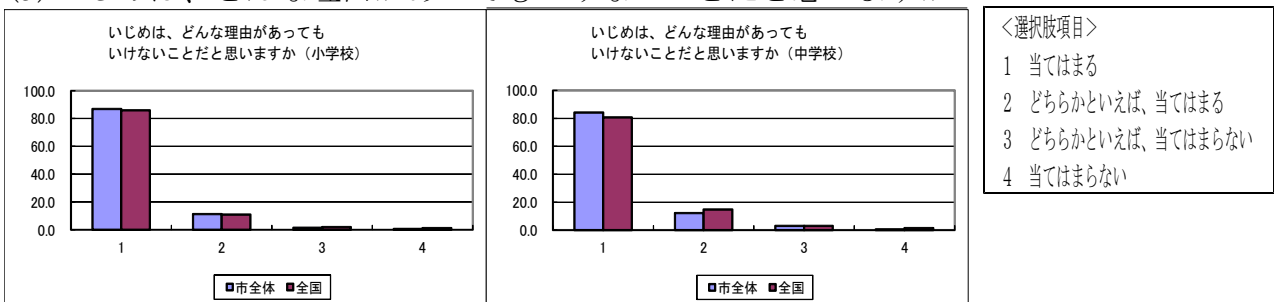
質問番号 (小, 中)	質問事項	小学校 (%)		中学校 (%)	
		市	全国	市	全国
(4)	学校のきまり(規則)を守っていますか	92.0	89.5	96.6	95.1
(5)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	98.0	96.8	96.4	95.5
(6)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.9	95.2	96.9	94.9

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(4) 学校のきまりを守っていますか



(5) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



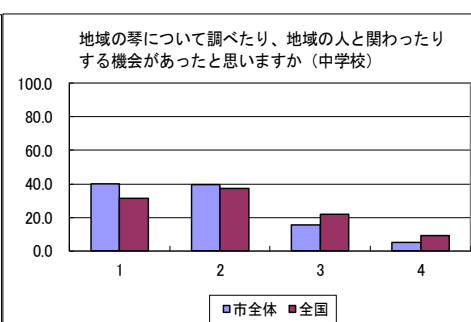
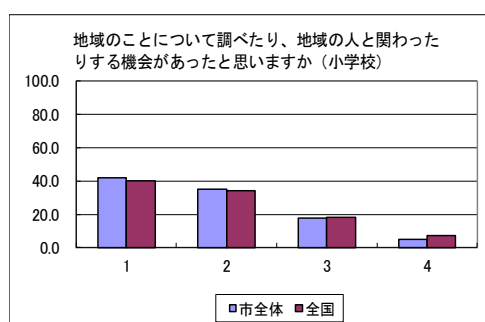
(7) 地域・社会への関心等

小中学生共に1事項を除いた全ての質問事項で全国平均を上回っており、地域や社会への関心が高いことが分かる。中学生においては、地域のことを調べたり地域の人と関わったりする機会があったと回答した生徒が全国平均より10ポイント近く上回っている。小学生は、生活科や社会科等の学習で自分の住んでいる地域について学習していることから、地域とつながりが強く、児童の関心も高いと考えられる。今後も地域との連携を大切にしながら児童生徒を育てていきたい。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(19)	5年生(中1、2年生)までに受けた授業や課外授業で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか	77.0	74.4	79.4	68.7
(20)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	69.2	62.7	54.8	45.6
(21)	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	68.6	63.8	64.9	59.3
(22)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	56.0	49.9	47.1	38.7
(23)	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか	60.4	64.6	69.0	73.6
(24)	地域の大人(学校や塾・習い事の先生を除く)に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか	46.8	41.6	28.7	25.5
(25)	新聞を読んでいますか	24.7	19.9	16.8	13.9
(26)	*「ほとんど、または、全く読まない」以外 テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む)	89.0	86.2	90.9	86.6

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計

(19) 5年生(中1、2年生)までに受けた授業や課外授業で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか



<選択肢項目>

- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

